２０１９年　１１月

～第 80 号～

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

『四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～』を開催しました

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

10 月５日（土）、四大公害病の語り部や解説員がイタイイタイ病資料館に集まり、公害被害と教訓を後世に語り継ぐ『四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～』を開催し、県内外から約 50 名の方々が参加されました。

前半の語り部講話では、水俣市立水俣病資料館の川本愛一郎さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の曽我浩さん、イタイイタイ病資料館の若林カズ子さんにご本人やご家族の体験をもとに講話をしていただきました。また、ご都合により、今回来館が叶わなかった四日市公害と環境未来館の谷田輝子さんの語り部講話を映像上映し、解説員として活躍されている斉藤正英さんにご説明をいただきました。

～語り部講話映像上映（四日市・谷田照子さん）
解説員の斉藤正英さん～

四地域の語り部や解説員が一堂に会する貴重な機会ということもあり、各人の講話のあとに設けられた質疑応答の時間には、会場から積極的に質問の手が挙がっていました。

後半の意見交換会では、講話いただいた４人の語り部と解説員、イタイイタイ病対策協議会の副会長であり当資料館の語り部としても活動されている小松雅子さん、当資料館の飯田館長が「公害病を令和の時代に語り継いでいくために」と題して意見交換を行いました。

まず４人の語り部と解説員の方々に、公害の発生から年数が経過した現在、事実を若い人たちに風化することなく伝えていくための日ごろからの取り組みについてお話いただきました。

各地域で異なる事情の中、皆さんさまざまな工夫をされているようでしたが、全員に共通していたのは、講話や解説を聞いた小・中学生から後日寄せられる感想文や、手紙などには大変感激し、ご自身の伝えたかったことが若い世代の方々にも確実に伝わっているという手ごたえを感じておられるということでした。

～意見交換会～

その後、会場の参加者や当資料館の他の語り部らも交え、生の声や顔が見える伝え方の重要性、またその担い手となる語り部に今後懸念される高齢化などにより「伝え手」の育成や解説員の活用、講話を収録した映像や、証言ディスプレイ等の利用についてもさらに活発な話し合いが続きました。

最後に、小松さんより語り部と副会長として総評をいただき、集いは閉会を迎えました。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

機関誌『資料館だより 2019 年　秋号』を発行しました

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

このたび、資料館での出来事や活動状況、各種のお知らせ情報をお伝えする「資料館だより 2019 年　秋号」を発行しました。

改元後初めての発行となった今回の秋号では、令和元年上半期の資料館の動きや、今後のお知らせなどを紹介しています。

この資料館だよりは、年 2 回(春・秋)発行しており、公立図書館等でご覧いただけるほか、資料館のホームページからもご覧いただけます。

「資料館ホームページ」
(URL：http://www.pref.toyama.jp/branches/1291/)